

【2】区域

(1) 区域設定の考え方

旧砂川市中心市街地活性化基本計画においては、砂川市の商業の活性化に寄与する9つの商店会および集客施設として位置付けた3つの大型小売商業店舗を含む202haを中心市街地として定め活性化に取り組んできた。しかし、市内における観光資源や産業資産、上記大型小売商業店舗への集客を中心市街地全体への経済波及効果に結びつけるまでには至らなかった。この要因としては、人口の減少やモータリゼーションの進展に加え、商店街全体としてのモチベーションの低下が挙げられる。

今回策定する新中心市街地活性化基本計画において都市機能が集積された地域を中心に、それらを取り巻く徒歩圏内住宅密集地を設定した。

①都市機能と商業の集積からの視点

〈市街地西側区域〉

現況としては、国道12号およびJR函館本線を境に西側（P36 区域図下部分）は、市役所、市立病院、公民館、図書館および金融機関と9つの商店会が形成されており、北側には大型小売店舗コープさっぽろ（市民生協）、南側にはホームック（大型日用雑貨店舗）とアシル砂川（各種食料品店、レンタルCDビデオ店、ドラッグストア等のショッピングセンター）があることから、市内はもとより近隣市町からも多くの集客がある。

当該区域は東洋高压工業（現北海道三井化学工業）が隆盛を極めた当時、従業員の社宅街が造成されるとともに国道12号を中心に花園商店会が形成され、活況を呈していた。現在は社宅の多くが取り壊され、花園商店会も解散しているが、小売商業店舗は現存し商圈として機能していることに加え、寺院が集中していることから住民の回遊が維持されている。したがって都市機能と商業が集積された区域となっているとともに、取り囲むように市営住宅や個人住宅が密集している。

また、中心市街地に隣接しているウォーターヒルズスクエアは、遊水地管理棟と河川・遊水地に関する学習館の役割を果たす建物であるが、城をイメージした外観、屋上からの眺望が話題となり、近年は観光スポットとなりつつある。ウォーターヒルズスクエア周辺は、パークゴルフ場、ローラースケート広場等の施設が市民に開放されているほか、イベント会場としても活用され、全道少年相撲大会、よさこい踊りなど、全道、全国から人の集まる賑わいの場であるとともに、砂川市開基百年記念像が建立され、家族連れを中心とする安らぎと憩いの場となっている。このことから、それらを包括した区域までとする。

〈市街地東側区域〉

国道12号およびJR函館本線の東側（P36 区域図上部分）は、地域交流センターおよび特別養護老人ホームをはじめ、市営住宅や道営住宅が建設され、地域交流センターに併設された自由通路によって徒歩で市街地へアクセスが可能な区域、さらにその南側（右部分）については、前述したショッピングセンターや商店会から500m以内の徒歩圏内に密集している個人住宅の区域までとする。当該区域には、「流れのプラザ」「水とオブジェのプラザ」の各公園が整備されている。この公園は農業用水のため縦貫する幅15.8m

の北海幹線用水路に蓋をして環境保全と安全性確保を図り、併せて緑地・公園化するという北海道内初の事業により完成したもので、総延長は約1 kmに及び。居住区域に隣接し南北に細長く延びる公園は、絶好の散策路として親しまれているほか、水車小屋、風車などが配備され、毎年、民間団体によるそば祭りが催され賑わいをみせている。また、砂川神社には年始に多くの人たちが訪れるほか、その周辺には北海道の名木に数えられる樹齢推定2千年以上の水松、木々の間を抜ける散策路、市内唯一の弓道場もあることから、当該区域は中心市街地における憩いの場となっている。

②回遊性向上からの視点

回遊性を向上させるため、新中心市街地活性化基本計画において商店会周辺で実施される「国道一直線花いっぱい運動」「ひやかしスタンプラリー」「ハロウィンパレード」など、各種事業の展開にあっては国道12号北側に位置するコープさっぽろの集客力を背景とし、イベント案内などによる消費者の相互交流を図りながら、市街地中心部、さらには南側へ賑わいを誘引する。また、中心部の南側(右部分)に広がる住宅密集地区においては、隣接する流れのプラザ、水とオブジェのプラザ、散策路、パークゴルフ場などの公園環境、年間観光客入込み数が約14,000人のオアシスパークやウォーターヒルズスクエアなどの観光資源を活かし、観光客・施設利用者の定着化とそれに伴う経済波及効果の拡大を図ることとする。

③地域住民活力からの視点

地域交流センターは、市民のみで構成されるNPO法人により運営され、600人からの個人賛助会員のほか、団体賛助会員、ボランティアがその活動を支援・サポートしている。当該法人組織人員、個人ならびに団体賛助会員、ボランティアのうち約70%は、中心市街地区域に居住していることに鑑み、地域交流センターと商店街をつなぐ新たな人の流れを生み出し、賑わいを創出する。

これら施策を実施するため、国道12号の南北にある大型小売商業店舗ならびに東西にある公共施設を集客施設と位置づけ、そこに隣接する住宅密集地域と周辺環境および観光資源、それら効果が一体的に及ぶ区域として、従来の202haを中心市街地として設定する。

なお、ハートフル住まいる推進事業については、現在まちなか居住区域の83haを対象に優遇助成しているところであるが、今後、平成21年度に当該優遇助成区域を本基本計画における202haとして改定予定である。



ウォーターヒルズスクエア



市民に開放されている
パークゴルフ場



北海幹線用水路に蓋をして整備
した流れのプラザ

(2) 中心市街地の境界になる部分

- ・ 東の境界 北海幹線用水路及び市道東1線
- ・ 西の境界 オアシスパーク
- ・ 南の境界 市道南4号線（南10丁目の一部を含む）
- ・ 北の境界 北10丁目

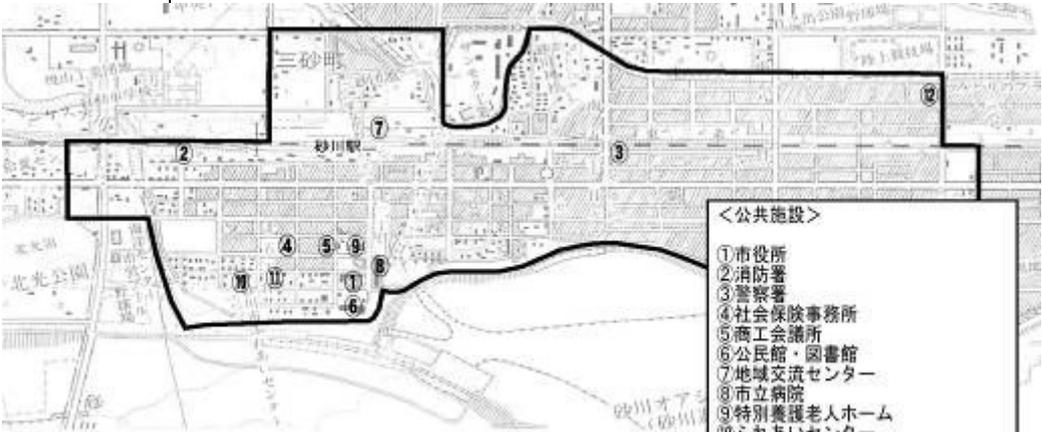
(3) 区域の面積

約202ha

(区域図)



〔3〕 中心市街地要件に適合していることの説明

要件	説明																						
<p>第1号要件 当該市街地に相当数の小売商業者が集積し、及び都市機能が相当程度集積しており、その存在している市町村の中心としての役割を果たしている市街地であること</p>	<p>① 都市計画法に基づく用途地域のうち、商業地域 21ha および近隣商業地域 32ha の全域を含んでおり、市内の9商店会の区域すべてと約74%の小売商業者が集積している。</p> <table border="1" data-bbox="571 465 1441 667"> <thead> <tr> <th></th> <th>中心市街地</th> <th>砂川市全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>店舗数(件)</td> <td>161</td> <td>219</td> </tr> <tr> <td>従業員数(人)</td> <td>1,228</td> <td>1,700</td> </tr> <tr> <td>年間販売額(万円)</td> <td>1,326,359</td> <td>2,617,539</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">出典：H16 商業統計調査</p>  <div data-bbox="655 1108 1380 1350" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">商店会凡例</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>1 トマト商店会</td> <td>2 銀座商店会</td> </tr> <tr> <td>3 駅前商店会</td> <td>4 中央市場商店会</td> </tr> <tr> <td>5 正和商店会</td> <td>6 柳通り商店会</td> </tr> <tr> <td>7 共栄商店会</td> <td>8 親和商店会</td> </tr> <tr> <td>9 朝日商店会</td> <td></td> </tr> </table> </div> <p>② 市役所をはじめ、市立病院、警察署、消防署などの公共施設が集積している。</p>  <div data-bbox="1098 1713 1409 2000" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">＜公共施設＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市役所 ② 消防署 ③ 警察署 ④ 社会保険事務所 ⑤ 商工会議所 ⑥ 公民館・図書館 ⑦ 地域交流センター ⑧ 市立病院 ⑨ 特別養護老人ホーム ⑩ ふれあいセンター ⑪ 職業安定所砂川出張所 ⑫ 南地区コミュニティセンター </div>		中心市街地	砂川市全体	店舗数(件)	161	219	従業員数(人)	1,228	1,700	年間販売額(万円)	1,326,359	2,617,539	1 トマト商店会	2 銀座商店会	3 駅前商店会	4 中央市場商店会	5 正和商店会	6 柳通り商店会	7 共栄商店会	8 親和商店会	9 朝日商店会	
	中心市街地	砂川市全体																					
店舗数(件)	161	219																					
従業員数(人)	1,228	1,700																					
年間販売額(万円)	1,326,359	2,617,539																					
1 トマト商店会	2 銀座商店会																						
3 駅前商店会	4 中央市場商店会																						
5 正和商店会	6 柳通り商店会																						
7 共栄商店会	8 親和商店会																						
9 朝日商店会																							

③ 商圈については、平成4年の北海道広域商圈動向調査報告書の中で、砂川市内消費者および近隣市町の消費者が砂川市内において買物をする割合は以下のとおりとなっている。砂川市を核とした一定の商圈が形成されているといえる。

《一般食料品》

砂川市（83.4%）～地元購入率
歌志内市（23.8%）上砂川町（41.2%）

《日用雑貨》

砂川市（59.8%）～地元購入率
歌志内市（20.1%）上砂川町（31.3%）

《医薬品》

砂川市（67.3%）～地元購入率
歌志内市（22.3%）上砂川町（41.3%）

《実用衣料》

砂川市（59.7%）～地元購入率
歌志内市（14.9%）上砂川町（28.3%）

《書籍・文具》

砂川市（59.7%）～地元購入率
歌志内市（17.7%）上砂川町（31.3%）

④ 総人口と昼間人口との比較では、平成12年、平成17年の国勢調査とも、昼間人口が2ポイント以上上回っている。一定の通勤圏が形成されているといえる。

	総人口(常駐人口)(人)	昼間人口(人)	比率(%)
H12	21,072	21,586	102.4
H17	20,068	20,593	102.6

出典：国勢調査

第2号要件

当該市街地の土地利用及び商業活動の状況等からみて、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じ、又は生ずるおそれがあると認められる市街地であること

- ① 土地の有効利用が必要な駅東部地区を含んでおり、他にも市街地に数多くの空き地が点在している。平成19年2月調査時で約165,000㎡(16.5ha)、エリア内の約8%に相当している。(再掲)



- ② 砂川市の人口は平成7年度末と平成18年度末を比較して9.1%減少しており、中心市街地においても8.7%減少している。(再掲)

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
市全体	21,740	21,616	21,464	21,405	21,136	20,847	20,709	20,571	20,362	20,175	20,043	19,763
中心市街地	6,630	6,599	6,521	6,517	6,402	6,291	6,265	6,219	6,131	6,063	5,996	6,052
中心市街地エリアの占める割合	30.5%	30.5%	30.4%	30.4%	30.3%	30.2%	30.3%	30.2%	30.1%	30.1%	29.9%	30.6%

出典：住民基本台帳

- ③ 店舗数および年間販売額とも減少傾向にあり、中心市街地商店街の衰退が進んでいる。

中心市街地小売業の店舗数・販売額

(単位：件 百万円)

	S62	H2	H5	H8	H10	H13	H15
店舗数	164	159	186	179	188	179	161
従業員数	1,045	1,043	982	1,113	1,153	1,137	1,228
年間販売額	1,418,474	1,468,193	1,572,161	1,702,688	1,659,152	1,447,152	1,326,359

出典：商業統計調査

- ④ 空き店舗数は増加傾向にあり、中心市街地の空洞化が進んでいる。

	H13	H14	H15	H16	H17	H18
空き店舗数	35	36	37	43	46	47

出典：砂川市商工労働観光課調査

<p>第3号要件</p> <p>当該市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進することが、当該市街地の存在する市町村及びその周辺の地域の発展にとって有効かつ適切であると認められること</p>	<p>①砂川市第5期総合計画基本構想・基本計画に整合</p> <p>平成13年度～平成22年度までの砂川市の将来に向けたまちづくりの指針となる基本構想および基本計画。その推進に向けた重点課題として「まちなか活性化の推進」を掲げている。まちの顔である中心市街地の商店街の魅力を高め、高齢者などが快適に過ごせるよう環境を整え、まちなか居住を進めるなどの施策により中心市街地の活性化を図ることとしている。</p> <p>②砂川市街地総合再生基本計画に整合</p> <p>平成7年3月策定。整備課題の中で砂川生活圏を代表する活力ある中心市街地の再構築が挙げられ、線形、希薄に広がる都市機能集積をコンパクトで有機的な市街地構造に再編し、まちの活力を集約した効率的な中心市街地を形成する必要性が挙げられている。</p> <p>③砂川市全体や周辺に効果が及ぶもの</p> <p>コンパクトシティを目指すことにより、特に冬期間の除排雪経費の行政コストを抑えることができ、中心市街地も含め周辺地域のインフラ整備等にも効果的に事業投資が可能であり、かつ財政的にも効率的な事業投資、事業展開に繋がるものである。</p> <p>また、砂川市立病院の診療圏人口の殆どは、病院改築担当の調査によると中空知地域（砂川市、滝川市、赤平市、歌志内市、芦別市、上砂川町、奈井江町、浦臼町、新十津川町、雨竜町）の約13万人の人々となっており、この改築により高度医療の恩恵を中空知地域の人々が受けることができるため、周辺地域の発展にとって有効である。</p>
--	---